

地質リスクテーマに

岡山県地質調査業協会 26年度技術講演会

岡山県地質調査業協会（小谷裕司会長）は25日、岡山市北区の岡山国際交流センターで「2026年度技術講演会」を開いた。写真。「地形学や地生生態学から地質リスクを考える」をテーマに、技術者や市民など約60人が参加。オンラインを含めると約1200人が聴講した。

冒頭のあいさつで小谷会長は「工事費や工期、安全の問題は、ほとんどが地盤や地質の不確実性によるものだ。地質調査が単に設計に必要な情報を得るだけでなく、事業の意思決定に必要なリスク情報を提供する仕事だと考えを改めるべきだ。地質リスクマネジメントが重要な時代になっている」と述べた。



立つ地形から見た地質リスク」と題し、地滑り地形の地質リスク評価に使用できる最新の評価技術を解説。関西大学文学部の黒木貴一教授は「地質リスク評価への地形的視点をテーマに、景観に注目して地質リスクを推定した例を示した。」山口太大学院創成科学研究科の太田岳洋教授は「地生生態学的視点から見た地質リスク」と題し、表層崩壊の原因や植生効果を考慮した斜面の安全率評価などを説明した。

